

自動化 工場の自動化・効率向上のための 装置設計における「構想設計」の進め方

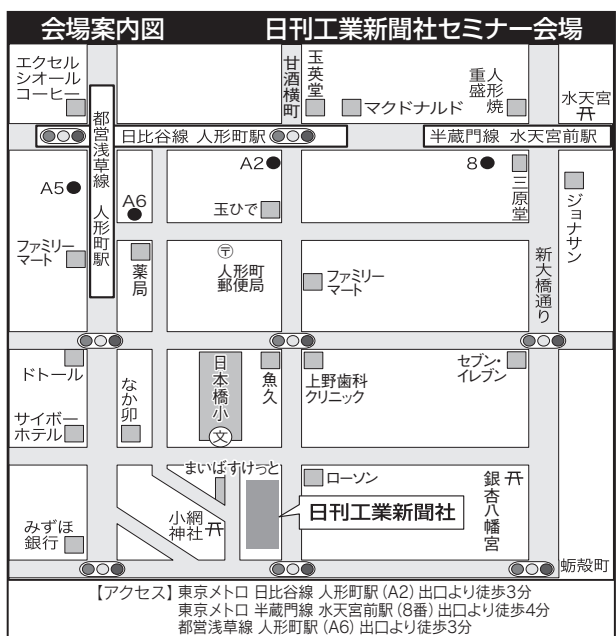
～こんな装置が欲しい！でも無理…を打破する「構想設計力」養成講座～

日時 2020年 **3月26日(木)** 10:00～17:00
(9:30 受付開始、休憩 12:30～13:30)

主催 日刊工業新聞社

会場 日刊工業新聞社 東京本社 セミナールーム
東京都中央区日本橋小網町14-1 (住生日本橋小網町ビル)

受講料 **44,000円** (資料含む、消費税込)
*同時複数人数お申し込みの場合2人目から39,600円
※後日、別の方が追加で申込をされる際は、備考欄に先に申し込まれた方のお名前と複数割適用希望と記載ください。
(記載が無い場合は通常料金のご請求となります。予めご了承ください)



日刊工業新聞社 東京本社 セミナールーム

東京都中央区日本橋小網町14-1 (住生日本橋小網町ビル)

【アクセス】

東京メトロ日比谷線『人形町駅』A2出口 徒歩3分、都営浅草線『人形町駅』A6出口 徒歩3分
東京メトロ半蔵門線『水天宮前駅』8番出口 徒歩4分

●申込方法

申込書を郵送又はFAXにて下記にお申し込みください。ホームページからお申し込みできます。(http://corp.nikkan.co.jp/seminars/) 受講料は銀行振込で受講票及び請求書が到着次第、開催日1週間前までにお支払いください。講座によりましては、申込者が最少催行人数に達していない場合、開催決定まで受講票ならびに請求書の発送を見合わせて頂く場合がございます。

なお、キャンセルにつきましては開催日1週間前までの受付とさせていただきます。1週間前までにご連絡がない場合はご欠席の方もキャンセル料として受講料全額を頂きます。振込手数料は貴社でご負担願います。

口座名義	りそな銀行	東京営業部	当座	656007
㈱日刊工業新聞社	三井住友銀行	神田支店	当座	1023771
	みずほ銀行	九段支店	当座	21049
	三菱UFJ銀行	神保町支店	当座	9000445

●申込先 日刊工業新聞社 総合事業局 教育事業部 技術セミナー係

〒103-8548 東京都中央区日本橋小網町14-1 (住生日本橋小網町ビル)
TEL 03 (5644) 7222 FAX 03 (5644) 7215
e-mail : j-seminar@media.nikkan.co.jp

※会場には受講者用の駐車場がありません。必ず最寄りの公共交通機関でご来場ください。
※講義の録音・録画は固くお断りいたします。

受講 申込書	3/26 自動化装置構想設計		お申し込みは FAX 03-5644-7215	
	■受講料：44,000円 (資料含む、消費税込) *同時複数人数お申し込みの場合2人目から39,600円		※振込手数料は貴社にてご負担ください。	
会社名	フリガナ		業種	
氏名	フリガナ	部署・役職	TEL	
			FAX	
所在地	〒		E-mail	※今後、E-mailによるご案内を希望しない方は <input type="checkbox"/> チェックをしてください。
備考				

※お申込み受付後、受講票ならびに請求書をお送りいたします。

No.190584

個人情報の取り扱いについて

ご登録いただいた情報は日刊工業新聞社が細心の注意を払い、展示会・セミナー・サービス等、各種ご案内を送らせていただくことを目的に利用させていただきます。
なお、宛先変更・配信停止をご希望の際は右記までご連絡ください。【ご連絡先】日刊工業サービスセンター 情報事業部 nkmail01@nikkansc.co.jp

開催にあたり

工場生産合理化、自動化設備を開発設計する際に、何から考えて行ったら良いのか、色々な構成・機構の特徴（長所・短所）があるのか、どの様な事を網羅して行けば良いのか悩むものです。どの様な機械を設計開発していくかを定める段階が構想設計です。自動化・合理化を進める手順の中で最も重要な工程となります。その際の目標値の設定方法、重要となるポイント、先ず何を決めて取り組むべきか、忘れてはならない項目、特に必要となる発想方法のヒントと考えの転換の方法を、講師の経験を基に解説します。

講師

熊田技術士事務所 **内藤 隆匡** 氏

【略歴】1976年(株)日立製作所入社。茂原工場、武蔵工場生産技術部でブラウン管、半導体生産設備の設計開発および、本社生産技術部のプロジェクトチームの一員として数工場の合理化ライン計画にも参画。また、茂原工場の半導体製造部で、設備計画・稼働管理取り纏めを行う。その後、システム部門責任者を経て、(株)IPSアルファテクノロジーに出向し、姫路液晶製造工場の建屋建設、搬送ライン責任者として工場立ち上げに従事し、パナソニック液晶ディスプレイ(株)に転属後、工場施設管理、環境ISO取り纏めを行う。退社後、2014年からセミナー講師として、機械要素、機械保全、クリーンルーム技術の講義を行っている。

プログラム

●はじめに

■設計目的（自動化装置が必要な理由）

- ・従来作業での問題点
- ・現状分析

■設計目標（こんな装置があれば良いのだが）

- ・生産能力
- ・目標精度
- ・自動化レベル
- ・その他の目標値

■制約条件（色々問題があって難しい）

- ・投資コスト
- ・開発納期
- ・工場建屋ユーティリティ規制

●生産ラインの合理化検討の仕方

■タクトバランスの考え方

■装置配置の検討

■搬送ライン、ストックの検討

●装置構成検討の仕方

■動作の分割

■送り方式

■部材供給方式

■加工方式

●機構における主な検討項目

■最適機構の考え方

■ハンドリング・位置決め方式

■部材供給方式

■メンテナンス対応

■環境対応

●発想の際に抑えるべきポイント

■既存の技術は？

■変更可能なものは？

■機械化故に可能なことは？

■選択肢を増やすには？

■他の分野での技術は？

■その他

●構想の抜けを防ぐ方策

■機能の見極め

■コストの検討

■安全対策